

○ 首都圏ミートパッカー輸出推進協議会が定期総会、役員全員を再任
「情勢の変化を注視しつつ、新たな輸出先の開拓を」と阿部代表理事

首都圏ミートパッカー輸出推進協議会（代表理事：阿部昌史ミート・コンパニオン代表取締役）はこのほど、「第 13 回定期総会」の書面表決を行い、2024 年度事業報告・収支報告、25 年度事業計画・収支予算などの議案について、原案通り賛成、可決した。任期満了に伴う役員選任では、阿部代表理事をはじめ原田智昌副代表理事（原田畜産食品代表取締役）、齋藤義一副代表理事（山梨食肉流通センター代表取締役）ら理事 11 人・会計監査役 1 人を再任した。

同協議会は、日本産食肉の輸出促進と海外でのブランドの認知・確立を図るため、首都圏・関東の畜産生産者・食肉流通事業者らで組織されている。総会に当たって阿部代表理事は、「日本産牛肉の輸出は一時的に伸び悩んだ時期もあったが、近年は 2 年連続で過去最高を更新し、堅調に推移している。25 年に入り、米国の関税措置の影響で輸出の先行きには依然として不透明な要素が残っているが、中国向け輸出再開の見通しが見え始めており、今後の需要拡大にも期待が高まっている。このような流れを好機と捉え、情勢の変化を注視しつつ、新たな輸出先の開拓にも取り組んでいく必要がある。昨年度に申し上げた通り、海外市場への輸出は、和牛の需給バランスの安定化や適正な価格形成に不可欠な要素であり、需要喚起に向けた取組みが求められる。今年度も輸出力強化への支援策として、当協議会が加入している日本畜産物輸出促進協会で販売促進活動のための派遣・招へい事業が実施されているので、ぜひ活用していただきたい。日本産食肉の輸出をさらに推進していくために、会員の皆さんと情報を共有し、より一層連携を深めながら取り組んでいきたいと考えている。日本産牛肉の価値を世界に広く届けるため、今後とも変わらぬ協力をお願いしたい」とあいさつした。

24 年度事業報告によると、海外での販売開拓活動のうち販売促進活動に係る派遣・招へい事業では、9 月 17 日から 22 日まで全国食肉学校で開かれる日本産牛肉の精肉加工・調理技術セミナーへ海外バイヤーらを招へいし、

日本産牛肉の特性や魅力の理解醸成を図った（事業参加者：ネクスス、対象国：タイ・4 人）。また、16 年から継続している日本産食材サポーター店の認定団体としての活動は、25 年 7 月 31 日現在、タイ・バンコクの飲食店「日本食ゆう奈」（1 店舗）を認定している。

そのほか、日本産畜産物の輸出に関する統計情報や、その他資料などの提供を適宜行った。

25 年度の事業計画では、①海外での展示会や商談会への専門家などの派遣（実施時期：7 月～26 年 1 月）②海外バイヤーなどを招へいした商談（同）——を実施する。

このほか総会では、日本畜産物輸出促進協会が提供する和牛証明書・QRコード付きシールや、米国の関税措置に伴う農水省の相談窓口、ジェトロ（日本貿易振興機構）による各都道府県の輸出相談所、HACCP 相談員、中小企業庁と（独法）中小企業基盤整備機構が実施する「ものづくり補助金」の概要などに関する資料が会員に提供された。